



のまちの未来について語り合おう 若者会議全体会を開催

7月8日、ひたち若者ががやき会議が主催する若者会議全体会が、茨城大学日立キャンパスで開催されました。同会議は、まちづくりや地域の課題解決に取り組む若者主体の組織で、この日は約30人が参加。地域の魅力を発信しているゲストによるトークセッションや「人とのつながり」をテーマにしたグループワークが行われました。会議を終え、代表の新妻幹生さんは「参加者が自分の目線でまちづくりについての意見を発信して、自然と輪が広がっていけば」と話しました。



北地域の市民グループ「茨城オトナ女子会」 日立市の名産を使った粕漬けを開発

県北地域の30代女性を中心に結成された市民グループ「茨城オトナ女子会」が、食品スーパーのヨークベニマルとコラボし、市内の名産を使用した「わたしのサクラ粕漬け」を開発しました。同商品は、市の花である桜の塩漬けと、川尻町にある森島酒造の酒かずにサケの切り身を漬け込んだもので、県北地域などのヨークベニマルで販売しています。同グループ代表の高久香里さんは「商品を通して、県北地域の食の魅力を多くの方に知ってもらいたい」と話しました。



年連続の快挙 鶴の岬の宿泊利用率が全国1位に

茨城県立国民宿舎鶴の岬が、全国の公営国民宿舎の令和4年度宿泊利用率で、34年連続の1位となりました。新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込んでいた宿泊利用率は、昨年度比15.3ポイント増の77.8%に回復。県外からも多くの方が訪れました。長年にわたり市内外から愛される鶴の岬。宇佐美泰重支配人は「地元の方々による日頃のご支援に感謝し、今後ともお客さまに親しまれる施設づくりに努めます」と話しました。



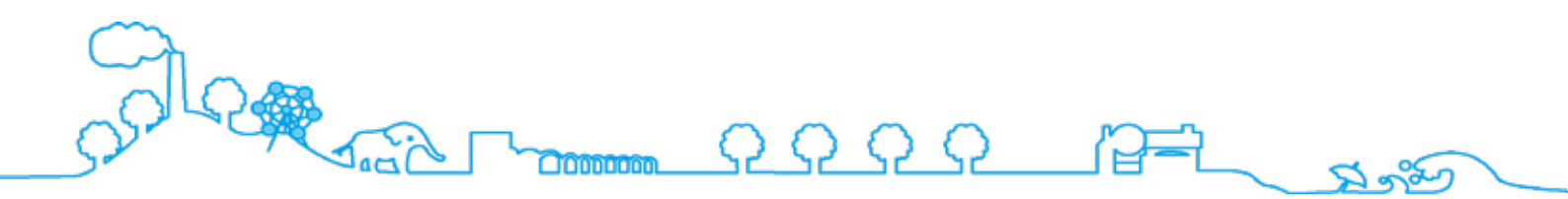
くておいしいブルーベリー 市内の農園で摘み取り体験

十王町伊師本郷の「ブルーベリーファームじゅうおう」や下深萩町の「てるてるファーム」で、ブルーベリーの収穫が最盛期を迎えています。市内でブルーベリーの摘み取り体験ができる両農園。ブルーベリーファームじゅうおうの小池精一さんは「今年も甘くておいしいブルーベリーができました。ぜひ皆さんに来てほしい」と話しました。摘み取りは8月中旬まで楽しめます。

*摘み取り体験は予約制です。

ブルーベリーファームじゅうおう ☎ 090-6178-2448

てるてるファーム ☎ 70-8743



台 風や豪雨に備えて
消防署と消防団が合同で水災害対策訓練

7月2日、台風や集中豪雨による川の氾濫などに備え、南部消防署と日立市消防団南部地区分団が合同で水災害対策訓練を実施しました。訓練は久慈川河口付近で行われ、合計47人が参加。道路の冠水などで避難することが困難となった要救助者を想定し、救助用ゴムボートを使用しての救出訓練を行いました。参加した日立市消防団の小泉副団長は「消防と連携し水災害に対応するための有意義な訓練となりました」と話しました。



日 立 SunNexus 茨城
上位リーグのチームを破り準優勝

7月3日、2023 ジャパンラグビートップイーストリーグ春季交流戦トーナメントで準優勝した日立 SunNexus 茨城が、小川市長を訪問しました。トップイーストリーグディビジョンBに所属する同チームは、17チームが参加するこのトーナメントで、上位リーグであるディビジョンAに所属するチームらを破り、見事決勝へ進出。決勝では、昨年のディビジョンA王者である東京ガスに惜敗しました。秋から始まるリーグ戦での、ディビジョンAへの昇格に期待が高まります。

身 近に命を救う環境を
市内コンビニ全店にAEDを設置

7月5日、市とコンビニエンスストア各社によるAEDの設置に関する協定の締結式が、市役所で行われました。市は平成19年から公共施設にAEDの設置を進めており、これまで約170か所に設置。今回の協定により、8月10日までに市内の全てのコンビニ72店舗に設置されることになります。協定を受けて小川市長は「コンビニは市民の暮らしに欠かせないもの。協定により救える命を救う環境が広がり、大変心強い」と各社に謝意を述べました。



20 年にわたり魅力的な公園づくりに貢献
公園里親団体に感謝状を贈呈

7月12日、20年にわたり公園里親として活動してきた5つの団体（はくさんまえ公園運営委員会、高鈴GVG、助川山保全くらぶ、イトヨの里泉が森公園運営委員会、赤羽緑地を守る会）に、市から感謝状を贈りました。公園里親制度は、市の公園の美化に取り組む団体を公園の「里親」に見立て、その活動を市が支援する取組で、現在27団体が活動しています。小川市長は各団体の取組を振り返りながら「長年にわたる皆さんの活動に感謝しています」と述べました。